むきばんだ花だより 12月

2016. 12. 3

「隠岐見えて遺跡の丘の冬うららら」

もと

◎チカラシバ(力芝) イネ科、チカラシバ属

○単子葉植物イネ科の多年草・別名：ミチシバ(道芝)～路傍に普通に生えるから。名前の由来：非常に強いヒゲ根を地中に下ろし、茎も強くて、引き抜こうとしてもナカナカ抜けない力強さがあることが由来。○花言葉：気の強い(ナカナカ抜けない)、信念、尊敬　★ 日本国内殆ど全土でみられる。普通は穂や小穂の毛に紫色の着色があり、全体に紫を帯びるが、これには変異があり、特に赤っぽいものをベニチカラシバ、着色せず穂が緑のものをアオチカラシバとして区別する場合もある。人の役に立つ面は少ないが、子供の玩具になることがある。穂を千切って手のひらの中に握り込んで、ゆるゆると握ったり開いたりすると、小穂の毛が斜め上に向いているので次第に穂の下側の方へと進んで行く、これが毛虫の様で面白いと云う。また、これを穂の下側の方から、長ズボンの裾から送り込んでやると、引っ張り出すのが難しく、体が動くにつれて中へ、中へと潜り込んで行く。それを見て笑うのである、うっかりするとパンツの中までももぐりこむので、結構痛い思いをする。＊欧米では園芸品種が作出されており、観賞用に栽培される。
★ 撮影日：2016,12,3　★ 撮影場所：妻木山地区

◎シロツメクサ(白詰草) マメ科 シャジクソウ属

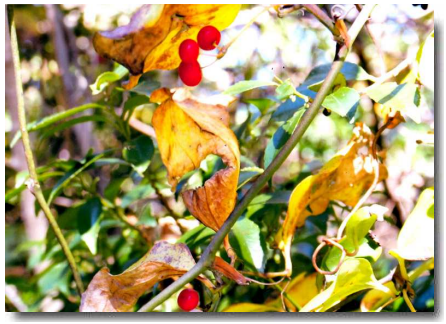
＊多年草。別名：クローバー。原産地はヨーロッパ
名前の由来：1846 年(弘化３年)にオランダから献上されたガラス製品の包装に緩衝材として詰められていたことに由来するものでツメクサ「爪草」ではありません。
日本には明治時代以降、家畜の飼料用として導入されたものが野生化した帰化植物。根粒菌の作用により窒素を固定することから、地味を豊かにする植物として緑化資材にも用いられている。葉は３小葉からなる複葉であるが、時に４小葉やそれ以上のものもあり、特に４小葉のものは「幸運の四葉のクローバー」として珍重される。花は葉の柄よりやや長い花茎の先につく、色は白(ほんのりピンク色)。雑草防止、土壌侵食防止等に利用される。
★撮影日：2016,12,3　★撮影場所：妻木山地区

◎ ヒメオドリコソウ(姫踊り子草)シソ科

オドリコソウ属　ヨーロッパ原産の越年草。日本では明治時代に帰化した外来種で、主に本州に分布する。
別名：サンガイグサ(三階草)オドリグサ、コムソウバナ
名前の由来：朝鮮半島から日本に分布するオドリコソウの同属であるが背丈･葉や花の大きさともに半分以下で小さいため「姫」の名を冠して呼ばれる。花序が環状に並ぶ様子を、踊り子が並んで踊る様に例えて名付られたとされる。＊ 花は明るい赤紫色の唇形花で、上から見ると放射状に並ぶ。温暖な地域では年間を通じて開花し、他の花が少ない時期にはミツバチの重要な密の供給源となる。3～5月が主な開花期です。しばしば「ホトケノザ」と共に生えており間違われることがある、
★ 撮影日：2016,12,3　★ 撮影場所：妻木山地区

◎サルトリイバラ(猿捕茨) ユリ科、シオデ属

雌雄異株の落葉籐本(とうほん)(つる植物)低木。
別名：サンキライ(山帰来)薬用植物,生薬で和の「サンキライ」と云われ、中国産の土茯苓(ドブクリョウ)の代用とされます。名前の由来：トゲのある蔓を伸ばして枝に絡み付き、藪のような所に猿が追い込まれると,動けなくなる事から、名付けられた。○若い柔かい葉を採取し茹でて水に晒,おひたし、あえもの、天ぷらにします。また、５月頃大型の葉を取り、カシワの葉と同じように餅を包み食べます。また、赤く熟した果実を採取し３５℃ホワイトリカーに約３か月冷暗所に漬け込み、材料を引き上げます。オレンジ色を帯びた美味しい薬用種になります。
★ 撮影日 2016,12,3　★ 撮影場所：妻木山地区



◎コマユミ(小真弓) ニシキギ科、ニシキギ属

日本や中国に自生する落葉低木。別名：ヤマニシキギ、名前の由来：「マユミ」(檀、真弓)は材質が強くよくしなる為、古来より弓の材料で知られていますが、小さなマユミの意味。しかし、種としてはニシキギ「錦木」の品種。○花言葉：真心・艶めき・心に潜んだ・あなたの魅力を心に刻む。○山野に普通に生える。秋の赤い実と、紅葉が美しく、(特に、紅葉は見事なのでモミジ・スズランの木と共に世界三大紅葉樹に数えられるそうです。)庭木として良く利用されます。＊ニシキギは、枝にコルク質の翼が４枚，十字型に発達しますがこの翼が無い品種が小真弓．まれに少し翼がある枝もあるそうです。
★撮影月日：2016,12,3　★ 撮影場所：妻木新山地区

◎ウラジロノキ(裏白の木)バラ科、ナシ亜科、

アズキナシ属、別名：アワダンゴ、ヤマナシ、ヤマスモモマメナシ。名前の由来：葉の裏面が白いことから。
○雌雄同株の落葉高木で、樹高は２０ｍにもなります。若い枝や新葉は表面も裏面も白い綿毛が蜜生し、新葉が展開すると表面の綿毛は脱落し、裏面の綿毛が残り白く見えます。花は５～６月短枝の先端に白色の散房花序を付け、果実は１cmほどで秋に赤く熟ます。先端に萼の残骸残ったバラ科独特の形状。紅い実は美味しくないので(少しリンゴの味する)、鳥はそれを知っているのか、なかなか食べ尽すことはありません。冬に赤い実が枝に残り綺麗です。＊果物酒を作ってみた~い！！。
★ 撮影日 2016,12,3　★ 撮影場所：妻木山新山地区(木の実の森)

◎クロモジ(黒文字)クスノキ科、クロモジ属

日本の低山や疎林に自生する落葉低木で雌雄異株。名前の由来：ダークグリーンの樹枝の表面にできる黒い斑紋を文字に見立てたものといわれる。○花言葉：誠実で控えめ。★枝は高級楊枝の材料とされ、楊枝自体が黒文字と呼ばれることもあります。また楊枝が多く「クロモジ」で作られるので、小楊枝(こようじ)、つまょうじ、の別名も有ります。　★花は黄緑色で、春に葉が出るのと同じ頃(自生する土地の高度で開花時期が前後する．高地では葉の出る前に花が咲く。)葉腋から出た散形花序に咲く。果実は液果で秋１０月頃黒く熟す。葉や枝には芳香がありこれを摘んで蒸留しとれる黒文字油は、香料としてかっては化粧品、石鹸などに使われた。また枝(烏樟)や根(釣樟)を(養命酒などの)薬用にもする。＊注：烏樟(ウショウ)、釣樟(チョショウ)、は生薬の名前です。
○秋の「クロモジ」も素晴らしく、黒くてキラキラ輝く果実・黄金色に輝く紅葉も見事で綺麗です。
★ 撮影日：2016,12,3　★撮影場所：妻木新山地区

◎モチノキ(鵬の木) モチノキ科、モチノキ属

別名；ホンモチ(本鵬)、トリモチノキ(鳥鵬木)、ヤマグルマ(山車)、ヤマモチ(山鵬)○古名：モチ(毛知)、モチノキ(毛知乃木)　名前の由来：樹皮から鳥もちが取れるのでこの名前があります。(しかし、樹皮をそのまま剥いだものが鳥もちになるのではなく、数ケ月間、水にさらし後に砕いて更に水で洗うというような工程を経て鳥もちが出来るそうです)。○花言葉：時の流れ。＊原産地：日本・中国で常緑性高木。育つと１０ｍ以上になります。雌雄異株。雌株は４月頃淡い緑黄色の小花を付け、径１cm位の果実を付け、秋に真っ赤に熟します。沢山の赤熟した果実を付けたモチノキは光沢のある濃緑色の葉と相まって美しく、少しクリスマスカラーをイメージさせます。
★撮影日 2016,12,3　★撮影場所：妻木新山地区

◎ノゲシ(野芥子、野罌粟)

キク科、タンポポ亜科、ノゲシ属。越年草。

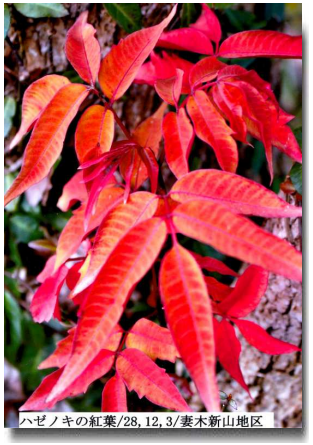
別名：ハルノノゲシ(春の野芥子)、ケシアザミ。
古名：ツバヒラクサ~葉の基部が茎を抱き、両側が開いている様子を鍔(つば)が開いているのに見立てた。　名前の由来：野に生え葉の形がケシの葉に似ていて、春に開花することから。花言葉：見間違っては嫌。＊原産地はヨーロッパと考えられていて、ムギ等の畑作と共に渡来した史前帰化植物の一つと云われます。＊花は５~７月頃、暖地では、１年中、茎頂に枝分かれして、黄色の舌状花を密に着ける。飼育するウサギの餌に良く使われる。
○ノゲシは,ハルノノゲシの名があり、似た植物には、オニノゲシ、秋に花が咲く、アキノノゲシが有ります。
＊乾燥した全草を煮出し健康茶として服用したり、柔かい若芽,若葉は,天ぷら,サラダ,茹でた葉茎をお浸しに。
★撮影日：2016,12,3　★撮影場所：妻木新地区

◎ベニバナボロギク(紅花襤褸菊) キク科、

キク亜科、ベニバナボロギク属　。一年草。
別名：ナンヨウシュンギク(南洋春菊)～戦時中日本兵が台湾で本種を食べていたと云われ、台湾では「昭和草」と呼ぶそうです。花言葉：大切なのは外見より中身。名前の由来：花は赤で、ぼろの様な冠毛を付けた菊だから。○日本では第二次大戦後の帰化植物として知られています。以外に、山間部に多く森林が伐採された際一斉に出現し、パイオニア植物としての姿を見せます。○葉は柔かく全体に、水気が多い草で花は夏から秋、茎の先端がまばらに分岐し、先端に着く。花は直ぐ下の柄が大きく曲がり横から俯いて咲く。花は管状花、花冠はレンガ色で結構目を引く草本です。
★撮影日：2016,12,3　★撮影場所：妻木新山地区

ガマズミの紅葉/28, 12, 3/妻木新山地区

ゴンズイの紅葉/28, 12, 3/妻木新山地区


ハゼノキの紅葉/28, 12, 3/妻木新山地区

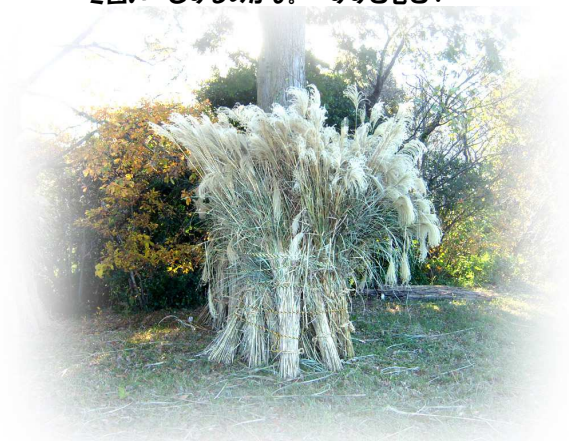
ヤマブドウの紅葉/28, 12, 3/妻木新山地区

ウリハダカエデの紅葉/28, 12, 3/妻木新山地区

ヤマツバキの花/28, 12, 3, /妻木山地区(遮蔽林内)

ムサシアブミの果実/28, 12, 3/妻木山地区

"冬囲い" とするのかな。 "すすき巻き？"



コウゾリナ(顔剃菜、剃刀菜)妻木山地区

クロキ　春の正常花

クロキ　秋の奇形花

○イボタノキ/「むきばんだ,花だより・11月号」参照/28, 12, 3/ 妻木山地区。この地区に，２本の「イボタノキ」が並んで生えています。植物図鑑等によると、果実は熟すと紫黒色になると書かれています。写真の右側の木は果実が紫黒色ですが、左側の木の果実は、熟していると思われるに、下の写真のとおり淡緑色です。珍しいですね?。 引き続き観察したいと思います。春、開花が楽しみです。～おぼろな記憶～「ネズミモチ」は果実が熟すと、紫黒色になるのに淡緑色の果実を見た記憶があります。「イボタノキ属」の木にはマレにあることかも。要検証！

左側のイボタノキ木の果実(淡緑色)

右側のイボタノキの果実(紫黒色)

★むきばんだを歩く会★

- 指導：鷲見寛幸先生（鳥取県自然観察指導員）
- 毎月第１土曜日午前９時３０分～正午
- 入会金　２０００円　　毎回資料代　３００円　　いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」